

「商社マンの節税ライフを紹介する見出しには、「国には何も期待しない」とあり、中段には「高級車、家族旅行代、子どもへのバイト代：『すべて事業の経費』」と大きな活字が躍っていました。

子どもの保育料軽減や教育助成金など、自治体の低所得者向け補助も受けてきた、と彼は語った。

高収入サラリーマンの「うまくてすごい節税自慢」を1面でたっぶり読まれた後に、しがない男(58)が、3面の記事の隅からふらつと登場。以下に記事を要約します。

- ・年収500万円ほどの平凡な生活
- ・その一方で37年間、所得税や住民税を払っていない
- ・「節税装置」は趣味のイラストづくり
- ・雑誌に寄稿し、毎年50万円ほどを得ている
- ・この「事業所得」に様々な「経費」を積み増して赤字にし、給与所得との合算で納税を免れてきた

3面隅の縦13字、横33行、400字ばかり短い記事に、サラリーマンの一部が強く反応し、当日のネット書店の在庫はいきなり消えた。こんな「場末」の泡沫記事に動いた人がいたことに驚きました。

一躍、「売れっ子」に

2008年9月中旬から1か月ほど、いろいろと声がかかった。10月8日、文化放送の「大竹まこと ゴールデンラジオ！」に自宅から電話で生出演した。

「今日のお客様は、ニッポン国にタダ乗り、しているタダノ・ノリオさんです」と大竹氏に紹介された。

「どういうことですか？」とアシスタントの女性。

「税金払ってないよ。この人」

彼に訊かれたことは、およそ次の3点でした。

- 1 天引きされる税金を全額取り戻すための「無税装置」の仕組み
- 2 その仕組みをどのように開発したのか
- 3 37年間も国税庁からクレームがつかなかったワケ

ラジオの後は、駅前のホテルで週刊誌「SPA!」の取材を受けた。週刊ポスト(取材